

# 洗 礼

## 1. 清めの式である洗礼と秘跡である洗礼（マタイ 3,1-12）

「洗礼（せんれい） ギリシア語「バプティスマ」（名詞形）の音訳。動詞形「バプティゾー」は元来「浸す」、または「沈める」、「洗う」という意味。」

- ユダヤ教の一部で、宗教的な清めの儀式として、身を水に浸すことが行われていました。
- 洗礼者ヨハネの「悔い改めの洗礼」（マタ 3:7）は、罪を告白しながら、回心を表明する人を水に入れるというような「清めの式」でした。
- ヨハネは別の洗礼について語っています。

◇ 「わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であな  
たたちに洗礼をお授けになる。」マタ 3:11（マコ 1:7-8；ルカ 3,16）

- 秘跡であるキリスト教の洗礼が表す恵みは、実際に神によって与えられますので、この洗礼は、象徴であるだけでなく、現実的な変化をもたらすものとなります。

### ● 洗礼式

◇ 悪霊の拒否

◇ 信仰宣言

◇ 洗 礼（次の言葉を唱えながら、頭に3度水を注ぐ・水の中に三度浸すことも可能）

○○○○（姓名）、わたしは父と子と聖霊のみ名によって、あなたに洗礼を授けます。

◇ 聖香油の塗油

◇ 白衣の授与

◇ ロウソクの授与

◇ 洗礼名の授与

「聖なる洗礼はキリスト者の生活全体の基礎、霊的生活の扉、他の諸秘跡に導く入り口です。洗礼によってわたしたちは罪から解放され、神の子として生まれ変わり、キリストの肢体となり、教会の一員となって、その使命に参与する者となります。『洗礼は水とことばによる再生の秘跡です』」。 (1213)

「水の中に「沈めること」は、洗礼志願者がキリストの死と結びれて埋葬され、キリストとともに復活して墓から出て、「新しく創造された者」（二コリ5・17、ガラ6・15）となることを意味しています。」（カトリック教会のカテキズム1214）

## 2. 聖霊による新しい命の始まり（神との関わり）（ヨハネ 3,1-15）

◇ 「イエスはお答えになった。「はっきり言っておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」ヨハ 3:5-8

◇ 「すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」使 2:38-39

◇ 「それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。死んだ者は、罪から解放されています。わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることもなると信じます。そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、

と知っています。死は、もはやキリストを支配しません。キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。このように、あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きていますのだと考えなさい。」ロマ 6:3-13

### 3. キリストの体、神の民である教会に加わる（他のキリスト者との関わり）

☐ 「洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。あなたがたは、もしキリストのものだとするなら、とりもなおさず、アブラハムの子孫であり、約束による相続人です。」ガラ 3:27-30

☐ 「つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。」1 コリ 12:13

「聖なる洗礼はキリスト者の生活全体の基礎、霊的生活の扉、他の諸秘跡に導く入り口です。洗礼によってわたしたちは罪から解放され、神の子として生まれ変わり、キリストの肢体となり、教会の一員となって、その使命に参与する者となります。『洗礼は水とことばによる再生の秘跡です』」。 (1213)

洗礼を受けた人が、新しい創造（2コリ5、17）、神の子、相続人となり、御子の霊がこの人の心に送られています（ガラ4、5-7）。この人は、神の本性にあずかり（2ペトロ1、4）、キリストの体の一部で（1コリ6、15）、主に結び付く者として、主と一つの霊となります。したがってその体は、聖霊が宿ってくださる神殿であって、自分の体で神の栄光を表すことができるようになります（1コリ6、17-20）または、御子の姿に似たものにされ、栄光を与えられ（ロマ8、29-30）、聖霊で証印を押されて（エフェ1、13-14；4、30；2コリ1、21-22）、神の内にもいつもとどまり、神もその人の内にとどまってくくださる（1ヨハ3、24）、聖なる民に属する者、神の家族であります（エフェ2、19）。

### 4. 水による洗礼と望みの洗礼（洗礼を受けない人の救いの可能性）

☐ 「それから、イエスは言われた。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける。」マコ 16:15-16

☐ 「愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。」1ヨハ 4:7

「・・・教会は永遠の幸福の保証を与えるための、洗礼以外の手段を知りません。したがって教会は、洗礼を受けることのできるあらゆる人々を「水と霊によって」生まれさせるために、キリストから受けた使命をなおざりにしないように努めています。神は救いを洗礼の秘跡に結びつけられましたが、神ご自身は秘跡に拘束されることはありません。」（カトリック教会のカテキズム 1257）

「教会が初めからつねに確信してきたのは、信仰のためにいのちをささげる人々は、洗礼を受けていなくとも、キリストのために、キリストとともに死ぬことによって、洗礼を受けるということです。この血の洗礼は、秘跡ではありませんが、洗礼の望みと同様、その効果をもたらします。」(1258)

「洗礼を受ける前に死んだ求道者については、洗礼を受けたいという明白な望みに罪の痛悔と愛とが伴っていれば、洗礼の秘跡によって受けるはずの救いが保証されます。」(1259)

「『キリストはすべての人のために死なれたのであり、人間の究極的使命は実際にはただ一つ、すなわち神聖なものですから、聖霊は神のみが知っておられる方法によって、すべての人に過越の神秘にあずかる可能性を提供されることをわたしたちは信じなければなりません』。キリストとその教会とを知らずに真理を求め、自分の知るところに従って神のみ旨を行うすべての人は救われうるのです。このような人々は、洗礼の必要性を知っていたなら、洗礼を受けたいという望みを表明したに違いないと考えられるからです。」(1260)

わたしたちが洗礼を受けるのは、自分の（死後の）救いのためだけでなく、キリストと結ばれて生き、教会の使命にあずかり、神の国を証し、福音を宣べ伝えるためなのです。

## 5. 洗礼後の人の状態

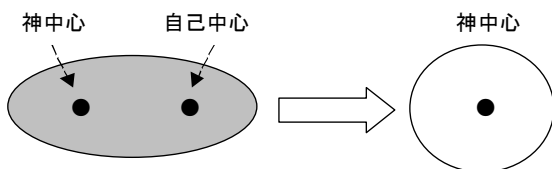
📖 「わたしたちは、律法が靈的なものであると知っています。しかし、わたしは肉の人であり、罪に売り渡されています。わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです。もし、望まないことを行っているとするれば、律法を善いものとして認めているわけになります。そして、そういうことを行っているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。それで、善をなそうと思う自分には、いつも悪が付きまどっているという法則に気づきます。「内なる人」としては神の律法を喜んでいますが、わたしの五体にはもう一つの法則があって心の法則と戦い、わたしを、五体の内にある罪の法則のとりこにしているのが分かります。わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるのでしょうか。わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝いたします。このように、わたし自身は心では神の律法に仕えていますが、肉では罪の法則に仕えているのです。(ロマ 7:14-25)

- ◆ 洗礼によって新しい人が生まれても、古い人が生き続けるために、洗礼を受けた人は、パウロが経験したような、内面的な争いを体験することがあります。
- ◆ 「古い人」は、現実的な存在ではなく、古い生き方への執着です。「小罪も含めたすべての罪は被造物へのよこしまな愛着を起こさせます。」 (カトリック教会のカテキズム 1426、1472、1473 参与。)

「受洗者には、苦しみや病気や死、あるいは、性格の弱さなどといった人生にはつきものの種々のもろさなど、罪に由来する一時的な結果は残ります。さらに、情欲あるいは比喩的に罪のかまどと呼ばれてきている、罪への傾きなどもそうです。」 (カトリック教会のカテキズム 1264)

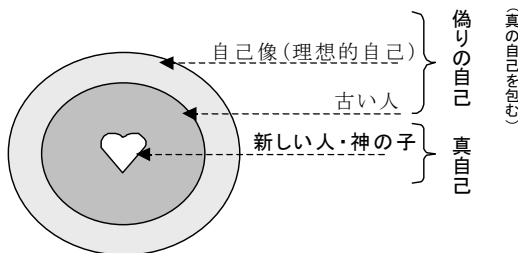
## 6. 靈的な(キリスト者の)生活の目標

- 📖 「キリストについて聞き、キリストに結ばれて教えられ、真理がイエスの内にあるとおりに学んだはずです。だから、以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。」 エフェ 4:21-24
- 📖 「今は、そのすべてを、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を捨てなさい。互いにうそをついてはなりません。古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達するのです。」 コロ 3:8-10



キリスト者の生活の目標は、自己中心の生き方(古い人の支配)からの自由になって、神中心にのみ生きること(新しい人の完成)です。

- 📖 「わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の靈の働きによることです。」 2 コリ 3:18



キリスト者の目標はキリスト自身です。

## 7. キリスト者が目指す目的への道

- 📖 「イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」 ヨハ 14:6

目標に導く道も、またキリストなのです。  
この「道」を歩むというのは、キリストとの(友情、信頼)関係を深めることなのです。